

協創推進の取組み状況

(令和7年10月時点)

次第

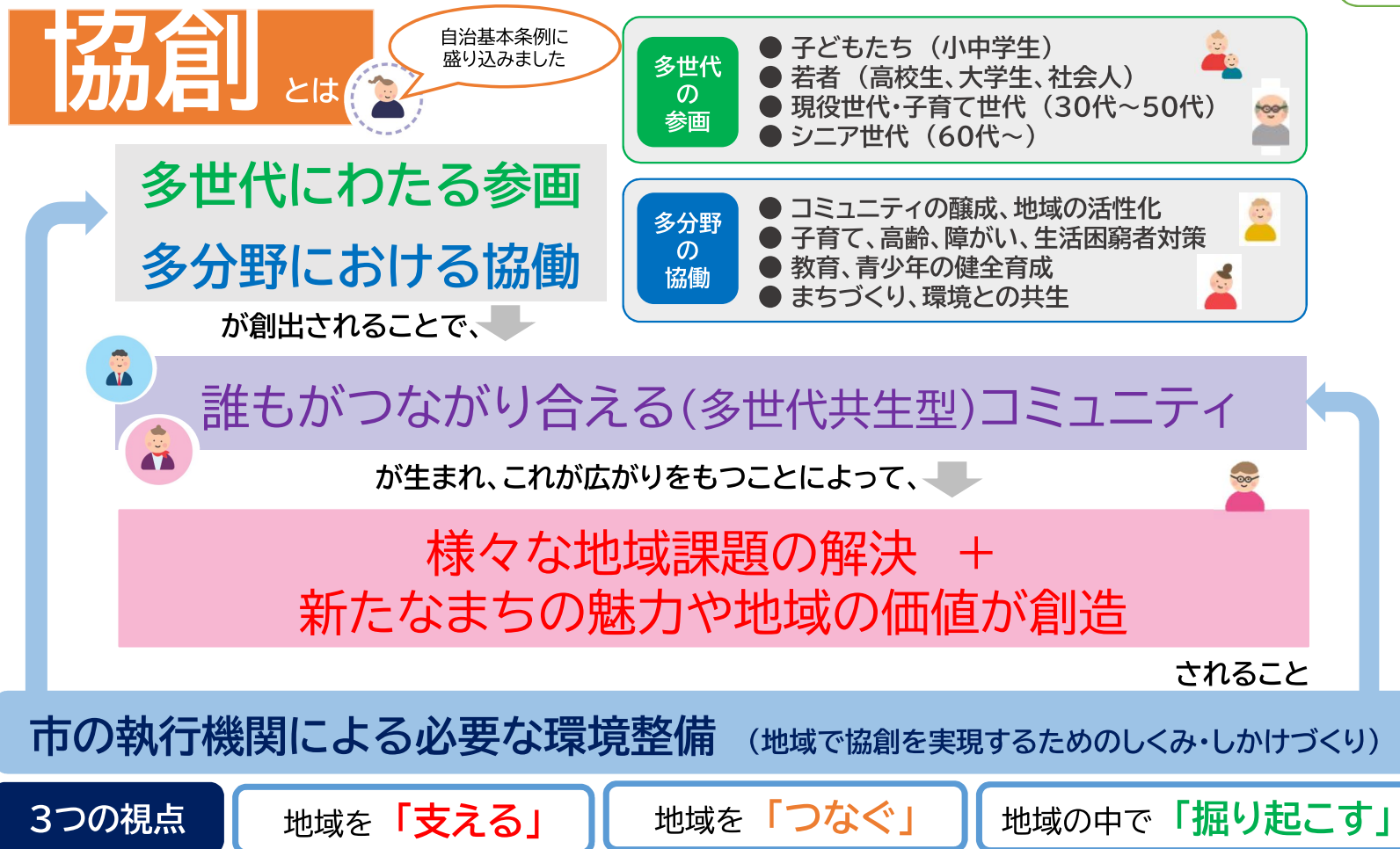
取組み状況の共有

地域で「協創」を実現するためのしくみ・しかけづくりについて

- ① 協創職員制度
- ② 地域協創市民活動事業補助金(ツナたま補助金)
- ③ 中間支援機能を担う団体による伴走支援
- ④ 多活動マッチング型の地域プラットフォーム(次第3で議論)
- ⑤ 多世代共生型コミュニティ施設の整備
- ⑥ 地域共助が可視化できるツール(②と関連)

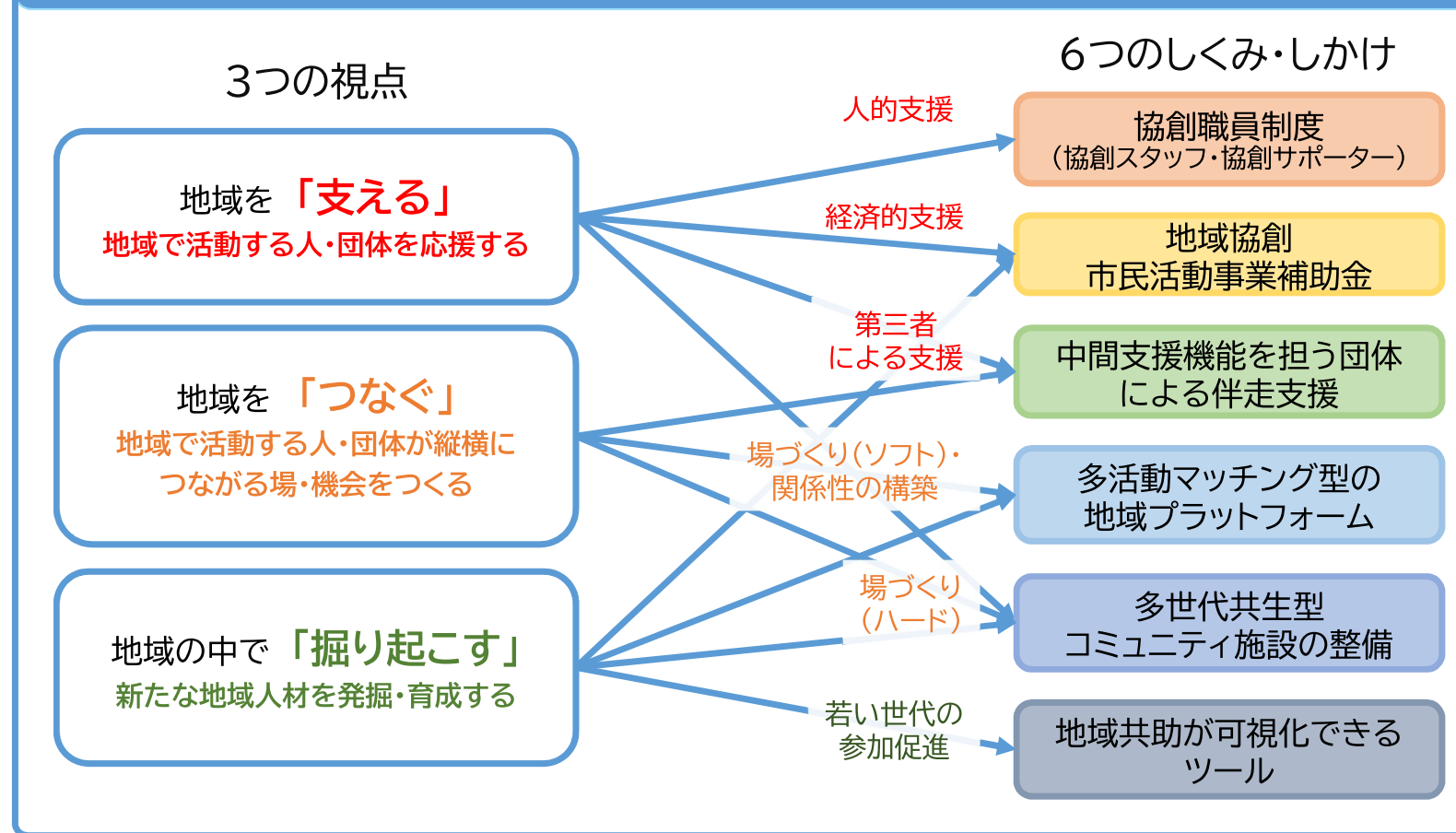
多摩市の「協創」の取組について

令和6年3月
自治基本条例改正



「協創」の取組 - 市の進める環境整備（しくみ・しかけづくり）

地域で「協創」を実現するためのしくみ・しかけづくり（R7～）



① 協創職員制度

■協創職員制度

- 協創スタッフ（専任職員）
- 協創サポーター（若手職員の研修）
- 協創シニアサポーター（ベテラン職員の活用）



地域みなさんと一緒に活動して、今後活かせるスキルやネットワークを得る

●協創スタッフ（R6.4協創推進室設置） ●協創サポーター（R6.10～試行）

■協創スタッフとしての職務内容

- 地域を**支える**（≡アドバイス）
 - 分野横断的な行政側の窓口、情報の収集・提供
 - 関係課と地域との橋渡し、庁内調整
- 地域を**つなぐ**（≡コーディネート）
 - 地域の会議に参加し、関係づくり
 - 団体間、人同士をつなぎ、ネットワーク形成
- 地域の中で**掘り起こす**（≡プロデュース）
 - エリアミーティングの開催等で新たな人材発掘
 - 地域カルテ、地域ビジョンの策定を通じた人づくり

■協創サポーター研修制度（若手職員）

- 若手職員の研修として、地域のイベントや事業への参加、支援を通じて、市の職員としてのスキルアップ、能力育成を図る
（コミュニケーション能力、ファシリテーション能力）
⇒令和6年度は公募職員による試行（11課17名）
⇒令和7年度は継続10名と2年目全職員（本年度2年目35名）

●協創シニアサポーター（構想中）

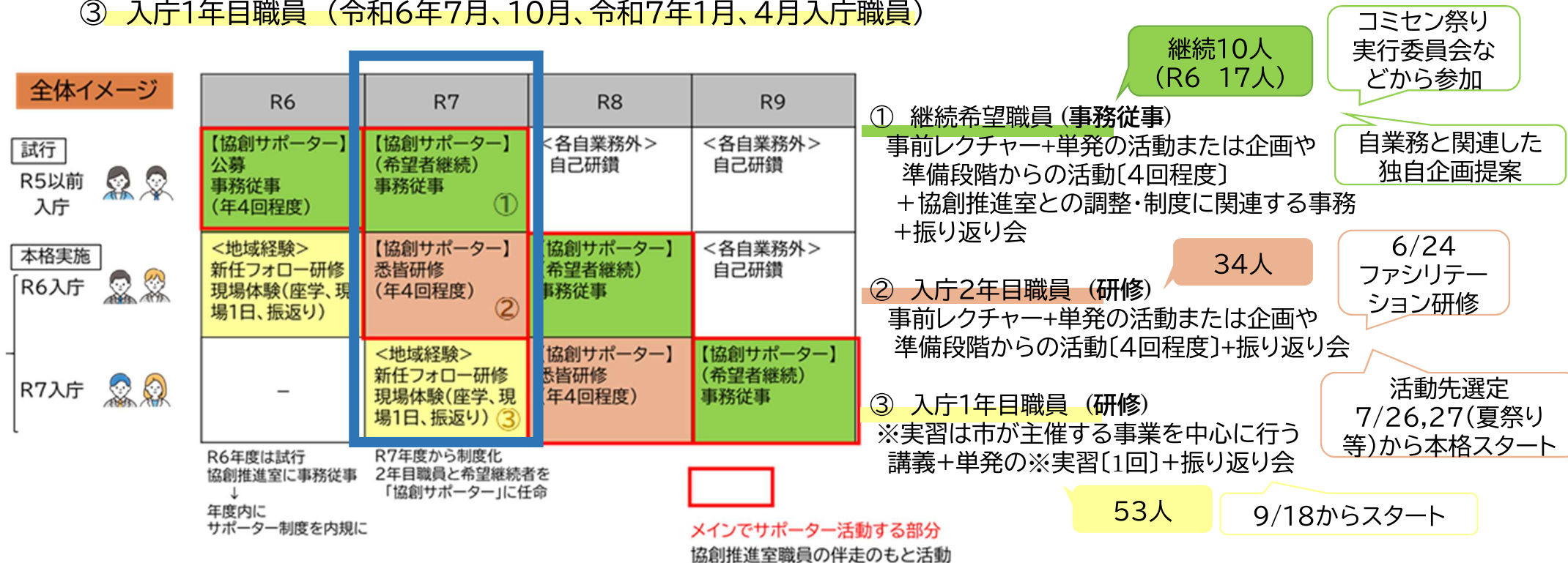


- 役職定年を迎えた管理職経験職員のキャリアを地域で活用検討

組織で得たスキルやネットワークを地域に活用して協創の実現に貢献

① 協創職員制度

- ① 継続希望職員（令和6年度に協創サポーターとして活動し、令和7年度も活動を希望する職員）
- ② 入庁2年目職員（令和5年10月、令和6年1月、4月入庁職員）
- ③ 入庁1年目職員（令和6年7月、10月、令和7年1月、4月入庁職員）



※いずれも、本来業務に影響のない範囲とし、勤務時間内での従事とする。
 （平日夜間の活動については、特例勤務などで通常の勤務時間をずらすことで対応する。週休日の活動となる場合は、振替休日を指定。
 振替は半日か一日単位でしか指定できないため、活動時間によってやむを得ず半端になった時間については、時間休を充てるか、
 受講報告書の作成や振り返り等、協創推進室が指定する活動や作業に充てることとする。）

① 協創職員制度

□協創サポーター活動状況

10月13日までの30事業51日程に、述べ97人参加

夏祭り・秋祭りやワークショップなど
1～4回参加(事業によっては土日な
ど複数日程に渡って参加)



8/24貝取こぶし館納涼の日



10/4,5かるがも館まつり



7/26つむぎ館まつり



10/11ランタンフェスティバル



10/11東寺方エリアミーティング



8/23青陵中エリアミーティング

① 協創職員制度

□参加職員の声

<地域や市民を知る>

- 普段所属課では事業でイベント等がない部署なため、様々な人と交流する機会があるイベントはとても新鮮でした。
- 想像よりよっぽど元気な高齢者も多く、参加したイベントが積極的に参加したり、交流できる場になっている。
- 多くのスタッフが関わっていたことから、「地域全体で子育てに関わっていくこと」や「多摩市の将来を担う子供たちのために地域を盛り上げたい」という強い思いに気づくことができた。
- イベント参加者は多摩市や普段の生活をより良くしたいと考えている方が多かった印象。
- このような地域活動があることを知らなかったのが、地域の方の発案で行っているということ自体が多摩市を活性化させていく上で大事なことだと思いました。
- 「市の取り組みが市民にとって身近で大切なものである」という実感を得られました。
- グループワークを通して、市民の方々が大切にしている価値観を少し知ることができた
- 市民の方々同士も交流することで、繋がりが広がると思うので、市がこういった場を設けることは大切だと改めて実感した。
- 他課が行っている事業に参加し、自分が知らない事業を知ることができた点はとてもよかった
- 自分の業務の利用対象(児童)が参加しており、この子たちのための業務をしているんだと解像度があがった。

<今後のスキルアップ>

- 今後のためにまた地域の方と交流を深め、何かの際に入っていきやすくなる関係づくりをするとともに、市民の方に頼ってもらえるような職員を目指そうと思えた。
- 多角的な視点で市全体を見ることや、話し合いの中から出た要素をまとめていくスキルを身につけたいと思った
- 継続的にかかわることで信頼感を得られた。今後も関わっていきたい

<課題・提言>

- 事業は良くても知られていないので、他部署との連携など庁内の協力が必要
- 事前に詳細な作業内容の説明があると良かった
- 休憩場所が狭く、休憩時間が短かった
- ボランティア感(作業人員)が強い現場であった
- 肉体労働が多かった
- 市民とコミュニケーションが限られていた配置であった。(もっと自分から動けばよかった)

② 地域協創市民活動事業補助金(ツナたま補助金)

【概要】

- 総合計画『**施策C-3 多世代共生型のコミュニティづくりの推進**』のため、【主な施策の方向性】の1つである、「**新たな地域人材を発掘・育成するしかけづくり**」に取り組み、【成果指標】として設定した「**様々な取組みによって、地域の中で新たな事業(プロジェクト)**」を生み出していく必要がある。
- これまでのエリアミーティングなど地域の取組みでは多種多様なアイデアが市民から出される一方で、実際に実現するための経済的支援がないことが課題となっていることから、**新規の取組みや新しい参画者を増やしていくためのしかけ**が求められている。
- これらのことから、本補助事業を立ち上げ、**既存の団体の活性化や新たな担い手の掘り起こし**を通し、民主体の地域づくりを一層推進する。

地域共助が可視化できる
ツール

【対象事業】

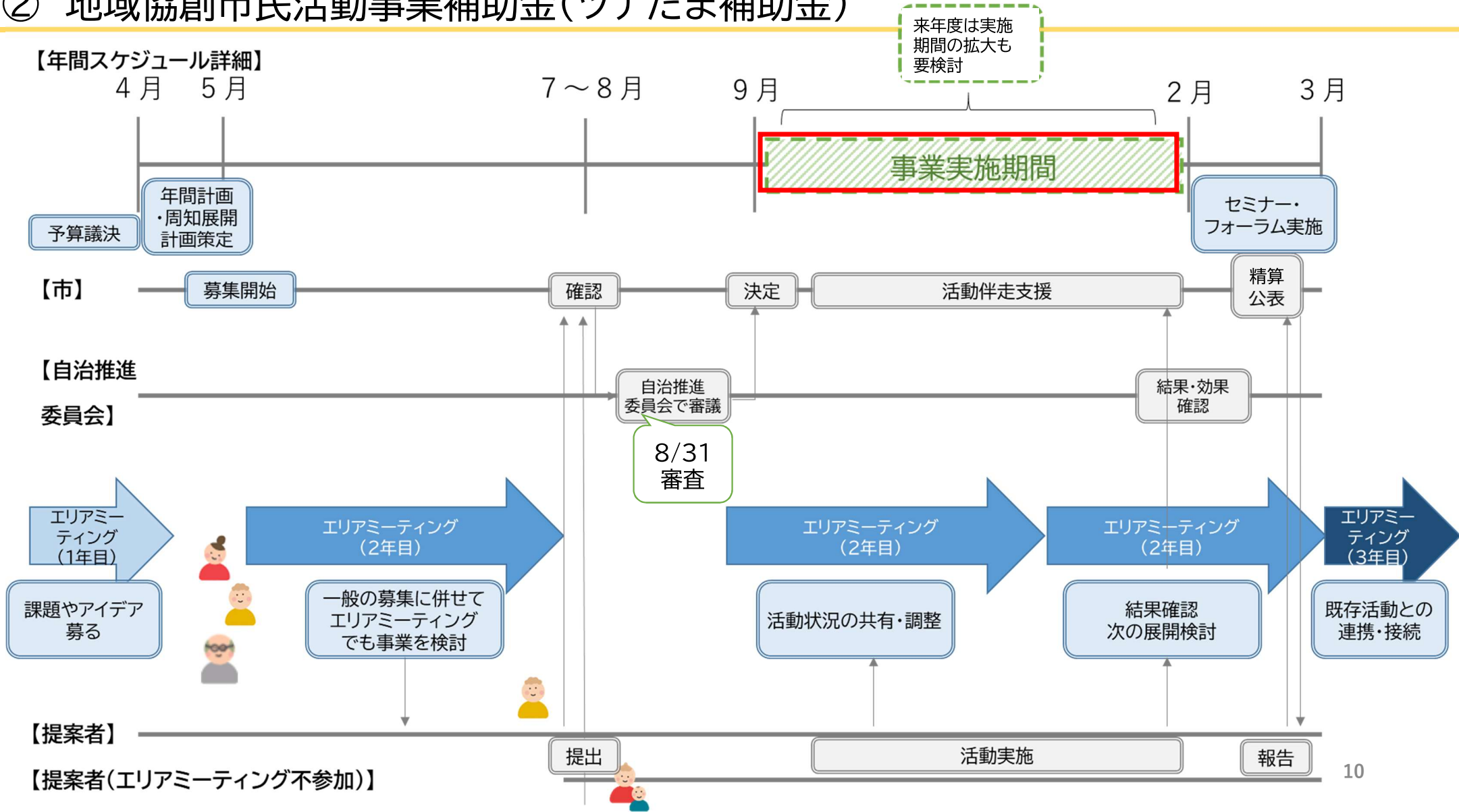
【テーマ設定型】 分野横断的な地域共助の可視化につながる事業 (50万円×1件)

【市民発意型】 多世代・多分野の地域コミュニティ形成につながる新規事業 (5万円×5件)

協創職員制度
(協創スタッフ・協創サポーター)

中間支援機能を担う団体
による伴走支援

② 地域協創市民活動事業補助金(ツナたま補助金)



② 地域協創市民活動事業補助金(ツナたま補助金)

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(つながる多摩)つなたま掲 示板	審査	9月中に 相談	掲示	掲示	掲示	掲示		フォーラム報告
安心してきてね。多胎児、年 子 予約休憩室			10/25(土)多 摩センターハロ ウィン(1日目) にて予約休憩 室					
地域のだれもが「やってみ よう！」ができる場所			10/4(土)星を 見る会		12/7(日)鷹を 見る会&団体 間交流イベント (子ども関連)			
地域の音楽愛好家を結ぶ、 オープンマイクイベント			10/26(日) オープンマイク イベント					
諏訪・永山れきし散歩				11/8(土) まちあるきイベ ント実施				
地域活動の必要性の理解を 求めて-自己変容と価値観 共有-		9/28(日)映画 上映会	10/26(日)映 画上映会	・11/8(土)東 寺方秋まつり (0円ショップイ ベント) ・勉強会(トラン	ワークショップ	ワークショップ		

③ 中間支援機能を担う団体による伴走支援・ ④ 多活動マッチング型の地域プラットフォーム



10/11エリア
ミーティング



世代の異なる方と
話せる有意義な機
会だった

8/16誰でも
カフェ企画
(リビングラボ)



いろいろな人と対話・
協力して地域の発展に
貢献したい

8/23エリア
ミーティング



10/6-12
ランタンフェス



学生、地域、行政が語
り合う、今までにない
景色だった

9/20エリア
ミーティング



住んでいる地域を
知るいい機会に

⑤ 多世代共生型コミュニティ施設の整備

現在の
状況、整備
に向けた
考え方等

豊ヶ丘

整備方針策定(令和7年3月)

建替え

⇒今後基本計画策定

指定地域共同活動団体の検討

○基本理念

「地域ニーズに柔軟に応え、多世代が集い、学び、つながる、豊ヶ丘の地域拠点」

庁内で検討中

- ・施設コンセプト
- ・機能、サービス
- ・運営方法 など

住民対話

①9/6(48名) ②2/3 ③6/6
+10月ランタンフェスでの社会実験

中高大学生や地域事業者
との協業

諏訪

現在の施設は老朽化が著しく進行し、耐震基準を満たしていないことから、なるべく早期に、仮施設に移転したうえで、当面の間は、地区市民ホールとして運営。近隣の都営団地建替え、UR団地再生の状況を踏まえ、今後の施設像を要検討。

東京都と、仮施設 移転先整理
9/9,19住民説明会(計91名)

関係機関との将来施設の検討

東寺方

再編後もコミュニティ施設として整備し、再編後は、既存のコミュニティセンターを補完するコミュニティ会館とする。

地域の人口構成、ニーズに柔軟に対応できるような運営形態の導入についても、地域の意向をふまえながら検討

令和7年度に、住民との対話にて

「整備方針」を検討

- ①5/17協議会
- ②7/12協議会
- ③8/9中間報告会
- ④8/30協議会
- ⑤9/27協議会
- ⑥10/18協議会
- ⑦11/29協議会



R7年度
実績・
予定事項

豊ヶ丘

豊ヶ丘テラス 第1回作戦会議

【開催日時】令和7年9月6日(土)14:00-16:00

【開催場所】豊ヶ丘地区市民ホール第1会議室(豊ヶ丘5-6)2階

【参加者】48名



作戦会議のテーマ

以下の4つのテーマについて皆さんから意見を頂きました。

その1:貝取・豊ヶ丘地区全体が盛り上がるために豊ヶ丘地域の拠点として、**どんな取組みが考えられるか**

その2:その1で出た意見に対して豊ヶ丘複合施設は**どんな役割になるのか**

その3:その2の役割に対して豊ヶ丘複合施設に**必要となる機能(どんな施設にするか)**

その4:その1からその3で出た意見の活動内容に対して**どんなかかわり方をするのか**

ランタンフェスティバル 社会実験

【開催日時】令和7年10月6日-10月12日

【開催場所】豊ヶ丘複合施設 敷地内



このようなパイロット活動を継続的に行うことで
地域への認識や関わりを高めていきたい

⑥ 地域共助が可視化できるツール

②と関連
ツナたま補助金 「テーマ設定型」
分野横断的な地域共助の可視化につながる事業
の採択事業等を通じて継続検討